

協働による活動事例を紹介「ちまたのコラボ」

アートとデザインのですべての人が自分らしく、挑戦できる社会へ

障がいのある人の表現と、デザイナーの技術を掛け合わせ制作されたデジタルデータ「仙台ふぉんと」が、約1年にわたる制作期間を経て、2025年4月にリリースされました。株式会社ユーメディア（以下、ユーメディア）と、障害者就労支援事業所アスノバ（以下、アスノバ）の利用者・スタッフが力を合わせた、仙台ふぉんとの魅力をご紹介します。

株式会社ユーメディア



メディアクリエイション部 執行役員	メディアクリエイション部 プランニングチーム 副長	営業推進部 制作ソリューション チーム副長
かどわき さち 門脇 佐知 さん	あべ なほ 阿部 奈穂 さん	いとう あずさ 伊東 梓 さん

仙台・宮城・東北を中心に事業を展開するコミュニケーションデザインカンパニー。印刷を祖業とし、Web・イベント・自社媒体など多様なメディアや手法を通じ、クライアントや地域の課題解決・共創に取り組んでいます。

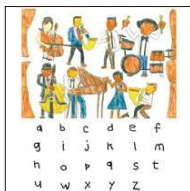
障害者就労支援事業所 アスノバ (株式会社未来企画)



管理者
おおごえ ゆうき
大越 裕生 さん

2018年、若林区なないろの里の複合施設「アンダランチ」内に開設。介護や保育など多様な福祉サービスを手がける株式会社未来企画が運営する就労継続支援B型の事業所です。

原画



フォント(書体)とパターン(図柄)



©sendaifont

販促物・商品



仙台ふぉんとは、2016年に東京都渋谷区で始まったプロジェクト「シブヤフォント」をモデルに、日本各地で展開されている「ご当地フォント」の一つとして誕生しました。障がいのある人が描いた文字やイラストを原画とし、デザイナーがフォントやパターンとして加工・デジタルデータ化する取り組みです。

フォントとパターンは誰でも利用可能で、個人利用の場合は、フォントは無料、パターンは500円でダウンロードできます。商用利用の場合は、別途使用料がかかります。これらの売上げの一部が、原画を描いた障がいのある人の収入になる仕組みです。用途に合わせて色を変えるなどのアレンジが可能のため、活用の幅も、関わる人の輪も広がっていきます。

仙台ふぉんとでの制作では、アスノバの利用者が原画を担い、ユーメディアがデザインを担当。アスノバのスタッフが両者の架け橋となりました。これまでに7種のフォントと9種のパターンを制作し、ステッカー、ノートなどの販促物や商品に活用されています。

1 ねがい

アートとデザインで 広がる選択肢

ユーメディアは、多様な人々が活躍できる社会を目指しています。その実現のため、自社の強みであるデザインを活かそうと着目したのが、ご当地フォントの取り組みです。障がいのある人によるアート活動は広がっている一方で、仕事につながっている事例は、まだ多くありません。門脇さんは「ご当地フォントの仕組みを活かせば、これまで絵を描いたことのない人の可能性も広がられる」と考えました。そこで原画を担うパートナーとして声をかけたのが、アスノバです。

これまでアスノバの利用者は、清掃や軽作業などの業務を中心に行っていました。大越さんは、「自分の個性を仕事の中で発揮する楽しさを利用者に感じてほしい」との思いから、取り組みへの参画を決めました。

利用者にとって、アスノバを安心できる居場所だけでなく、社会とつながれる場になりたい



▲原画作りに挑戦するアスノバの利用者

2 ぽいんと

「共に創る」ことで 新たに生まれる表現



最初は互いに壁がありました、
友達のような関係に
なれました



ユーメディアにとって、障がいのある人との共同創作は初めての経験でした。互いにもどのように関わっていけば良い作品が作れるか手探りの中、大切にしたのは対等な立場で刺激し合える関係づくりです。そのためユーメディアの門脇さん、阿部さん、伊東さんの3人は、まずアスノバに足を運び、利用者の日課であるラジオ体操に参加するなど交流を重ねました。原画制作では、利用者の発想のぎっかけとなるように、仙台らしいモチーフを含む多様なフリーイラストや50音表を事前に用意。利用者はその中から気になる絵や文字を選び、模写することからスタートしました。大越さんは「上手に描こうとせず、自分らしく描いてほしいんだよ」と声をかけ、その人らしい表現を引き出しました。次第に利用者から「これはどう?」と絵を見せる姿も見られるように。こうして生まれた原画をデジタルデータ化した伊東さんは、利用者の文字や絵の特徴を、デザインの魅力として活かしました。

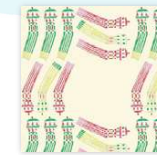
3 これから

多様な人と 社会をつなぐ存在に

仙台ふぉんとでの取り組みは、原画を描く人、フォントやパターンを使う人など関わる人が増えることで、さらに広がっていきます。門脇さんは、「まずはより多くの人に知ってほしい。そして、表現活動をしたい人、社会貢献したい人、それぞれの一歩を踏み出すきっかけになれば」と、期待を膨らませます。



©sendaifont



©sendaifont



©sendaifont

仙台ふぉんと

取り組みの詳細はHPをご覧ください▶

